

特集

霧島つつじの里帰り ～数百年の時を経て～

熊倉造園土木(株) 熊倉 弘

1. 霧島市長より霧島つつじの現地調査の依頼が来た

今から4年前の平成23年、鹿児島県霧島市より現地における霧島つつじの品種の調査依頼が届いた。

その前に、霧島市の方で霧島つつじの調査をしている方が館林市へ来られて、つつじの品種について実際に識別出来る研究者を探しに来たといわれていた。

その方は、「霧島連山稀少植物保全調査会」の役員の方で霧島つつじの調査に大変熱心な方でした。この調査会は平成22年から霧島つつじを中心に調査が始められたといわれ、その前身は昭和47年から始められた「稀少植物全般に渡っての調査会」の発足があったようです。それらの経緯があって、霧島連山を中心としたつつじの調査を官民一体となって進めてきたとのことでした。

植物の専門家である学者先生も出向いていたようだが、実際の識別が難しいとのことで、館林の私、熊倉弘に依頼が来たので、現地のつつじ開花の時期に合わせて何度か2、3日ずつ現地へ入って調査をすることになった。

調査は近隣の市町も含めて広範囲に及んだが、わずかに「本霧島」が点在はしていたが極めて少なくなっていた。他の品種は全く見られなかった。クルメつつじや平戸つつじや琉球つつじ等は多く植えられているが「霧島つつじ」は少数の株しか見ることが出来ないことが初めてわかった。

2. 霧島つつじとは

霧島つつじとは、なぜ霧島つつじというかおそらく数百年前から千年位前にさかのぼると思われるが、九州鹿児島県の霧島連山の麓から自生していた朱赤の独特なつつじを村人が見つけ出して、地元の大名である島津藩へ納められて島津藩から大阪、京都の都へ集められてやがて江戸へと都の中心が移ると、当時は朱赤のつつじは最高の人気植物で、江戸時代には先進的な植木業者により挿し木繁殖も実際に行われ、多くの大名の眼に留まり、参勤交代の時の地方のお土産の霧島つつじは最高の植物だったようです。

江戸時代の江戸には全国から色々な物資が集められ、その中で霧島つつじも江戸へ集められたので一般に「江戸霧島つつじ」と呼ばれているつつじの種類です。よく江戸で育成されたつつじといわれますがそれは間違いです。霧島連山の自生の野生種です。

私の研究で江戸霧島つつじは20数品種があることがわかり「日本の園芸つつじ」の中で発表しました。江戸で出来た霧島つつじの中で「日の出霧島つつじ」と「田無霧島つつじ」は江戸で育成された品種です。他の殆ど霧島つつじが鹿児島県の霧島連山の麓から運び出されたものです。

今日最も普及しているクルメつつじは人工交配されたもので出来てから百八十年から二百年しかたっていません。霧島つつじは交配ではなく天然の自生種の中から選抜されたもので数百年を経た株が全国に点在しています。

3. 私のつつじ調査研究のはじまり

昭和38年頃、館林のつつじ公園入口周辺の売店へつつじの苗木の卸販売を始めた。3、4年は売れなかったが定価販売をしていたので、そのうちに大量に売れるようになった。お客も今日とは違い30万から40万人とすごい人出だった。お客の中には外国の方も多く来られていて、つつじの品種名をよく聞かれたがわからなかった。おまえ「プロだろ、なぜわからないのか」といわれ、それから調査研究に入るようになった。

植木の古い産地の古老を訪ね、埼玉の安行をはじめ新潟の新津、愛知の稲沢、静岡の浜松、福岡の久留米等何度となく訪ね歩いて資料を集めた。又、母校の恩師やその紹介で各地の試験場、大学等も訪ねた。

特に東京大学の植物学教室の植物分類学の泰斗である山崎敬先生を紹介されて、45年にも渡って指導を受けることが出来た。山崎先生を中心としてつつじの専門書である「つつじ種類とその栽培」、「日本の園芸つつじ」の中で三分の一を執筆したが特に江戸キリシマつつじを担当した。

館林には世界一のつつじ公園が450年も前に出来て、今日江戸時代のつつじが集められているのは日本で、い



奉納霧島つつじ 10tトラック積込み
熊倉造園農場より (H27.10.13)



奉納霧島つつじ 10tトラック積込み
熊倉造園農場より (H27.10.15)



霧島神宮奉納霧島つつじ目録



奉納霧島つつじ霧島神社到着 (H27.10.7)



奉納霧島つつじ霧島神社到着 (H27.10.7)



霧島神宮植込みは市立国分中央高校生と (H27.10.8)

や世界でこしかありません。つつじの研究者にとつてこの上ない教材です。

4. 霧島つつじ再調査の依頼

前回の調査以外の場所のつつじの調査に今年（平成27年）にも再度出掛けた。やはり霧島つつじは無かった。霧島市で今年（平成27年4月17日）霧島つつじサミットが開かれ、市長から民間人として招待を受けて出かける。出席していた多くの人達と霧島つつじ談義に花が咲いて楽しい一時でした。

5. 霧島つつじ繁殖を始める

霧島市には市立の霧島市立国分中央高校があり実業系の学校で附属農場もあり造園コースの生徒15人がいて昨年霧島つつじの挿し木繁殖を始めたがどうもうまくいかないので指導する担当の先生を6月に館林の熊倉の農場で実技の実習に3日間受け入れた。これは霧島市長、国分中央高校長、教育長の強い希望があつて受け入れた。

その後霧島の高校で挿し木をしたが活着率が悪いといっていた。私のところでは百パーセント活着しているのでそのうちにうまくいくように指導したいと思っている。

6. 霧島つつじの里帰り、霧島神宮へ 霧島つつじ奉納

今年（平成27年）の4月に霧島つつじの調査で霧島市周辺を廻っている時に霧島神宮なら霧島つつじもあるだろうと見て廻ったが見つからなかった。神宮の記録によると数百年前には霧島つつじがあつたと神宮の記録にはあるらしいが現在は一株もなかった。

神宮というところは天皇家の守り神なので一般からの奉納等は伊勢神宮でも明治神宮でも受け入れしていないことは私も知っていたが、許されれば霧島つつじを里帰りとして奉納を申し出たいがいかがでしょうか、とたずねてみたら、丁度今年が神宮三百年大祭の年でもあり霧島神宮霧島市調査会の関係者と協議されて奉納をお受けする旨霧島神宮から六月に正式に連絡が届きました。

今年の大祭のための工事は、客殿、駐車場周辺の工事

で10月31日が竣工式とのことで奉納が許されたので六月から準備をして10月5日発送、7日到着、7日、8日、9日の植樹の工程に進めた。

奉納する霧島つつじは樹高二メートル（30年から40年生）のものは八品種（本霧島、紅霧島、紫霧島、桜霧島、日の出霧島、瑞光霧島、八重霧島、千重霧島）80株、霧島市役所へ贈呈、本霧島40年生、2株、霧島市立中央高等学校へ贈呈10株、合計92株を10トントラック一杯にして送った。

現地で植え付けに館林の土を八立米一緒に積んで持って行き植栽の時に株元へ敷き込んだ。霧島つつじの植付けには熊倉が指導に来て欲しいと神宮からの要請があり3日間出向いてくる。霧島での喜びようは、それは大変なもので連日報道各社がつめかけていた。

平成27年10月31日には霧島神宮三百年大祭の竣工式で呼ばれて行って宮司様よりめったにいただけない感謝状をいただきました。その賞状には天皇家のご紋である「十六葉八重表菊」が入っていました。

これで霧島の地へ霧島つつじがやっと数百年ぶりに里がえりが出来ました。来年以降つつじの開花時には霧島へ出掛ける予定です。

今日でも数あるつつじの中で最も人気の高い霧島つつじが、古里の霧島の地でこれから幾百年と咲きほこり多くの人々を楽しませてくれることを願ってやみません。



竣工式・霧島神宮宮司様と鋤入れ式 (左：熊倉) (H27.10.31)



霧島神社 (H27.10.9)



竣工式・霧島神宮宮司様より熊倉へ感謝状 (H27.10.31)



竣工式・地元調査会役員 大窪三郎氏と熊倉弘 (H27.10.31)